

課題名	98 果樹のウイルス病の発生生態	分類	①
	1) ナシの萎縮病の発生生態		
試験研究年次	62～1年(繰上げ終了)		
I 目的	県内のナシ産地で発生している萎縮病の原因を明らかにして防除対策の確立をはかる。		
II 試験方法	<p>1 発生実態調査</p> <p>(1) 調査地域: 八女市、嘉穂町、行橋市、築城町</p> <p>(2) 調査樹の概要: 八女市: 新水15年生 嘉穂町: 1. 二十世紀18年生に新水高接ぎ10年目 2. 長十郎30年生に新水高接ぎ15年目 3. 二十世紀18年生 行橋市: 1. 菊水50年生 築城町: 1. 二十世紀13年生に豊水高接ぎ 2. 新水13年生 農総試験場内: 新水、幸水、豊水、二十世紀7年生</p> <p>(3) 調査時期: 昭和62年7月病徴調査、昭和62年10～12月材部の腐朽調査</p> <p>2 接種試験</p> <p>(1) 試験場所: 農総試験場内ほ場</p> <p>(2) 供試品種・樹齢: 二十世紀 鉢植え苗木</p> <p>(3) 供試菌: 県内(築城町、嘉穂町)の発病樹より分離した菌</p> <p>(4) 試験の規模: 1 菌株5反復</p> <p>(5) 接種時期・方法: 平成1年3月28日にナシ苗木の幹にコルクボーラで穴をあけ、焼きゴテをあて、その部分にPDA培地で13日間培養した菌を培地ごと埋め込み、水でぬらした脱脂綿をあて、ビニルテープで巻いて温室条件を保った。</p> <p>(6) 調査方法: 5月10日に症状の再現を観察した。</p>		
III 主要成果の概要	<p>1 ナシの萎縮病発病樹に見られる病徴は、葉では萎縮、モザイク、葉縁の褐変などが見られ、また、果実には硬化、水浸状果、新梢には伸長不良、ネクロシス、主幹部には枯死、材部の腐朽などが見られる。しかし、八女市の発病樹は葉、新梢の症状が顕著でも果実に対する影響が少なかったが、嘉穂町、行橋市、築城町の発病樹は葉、新梢の症状が軽くても果実が水浸状になり、実被害が大きい。</p> <p>2 築城町及び八女市のナシ萎縮病発病樹の腐朽部より分離された菌は、農水省果樹試験場の佐久間氏の同定により木材腐朽菌の一種オオミコブタケ (<i>Ustilina vulgaris</i>) であることが判明した。</p> <p>3 本菌の接種により、萎縮病の病徴が再現されたので、ナシ萎縮病の原因はオオミコブタケである。</p>		

IV 主要成果の具体的データ

第1表 ナシ萎縮病発病樹に見られた病徴(62年)

部 位	症 状	タイプI ¹⁾	タイプII ²⁾	健全樹 ³⁾
葉	葉面モザイク	-	+	-
	葉縁の褐変	+	-~±	-
果 実	水浸状果	-	+	-
主幹部	枯 死	-	-~±	-
	材部の腐朽	+	+	-

注) ① - : 発病なし、± : わずかに認める、+ : 発病あり
 ② 1) 八女市で発生、2) 嘉穂町、行橋市、築城町で発生
 3) 農総試験場内

第2表 発病樹からの分離菌接種による発病状況(1年)

供試菌	接種樹数	発病樹数
嘉穂菌	5	0
築城菌	5	1

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 ナシ萎縮病対策の資料となる。
- 2 木材腐朽菌は傷口から侵入するので、株元を傷つけないように注意する。
- 3 発病樹はせん定や結果数の調整を行い、樹勢を低下させないようにする。

VI 今後の研究上の問題点

萎縮病の病徴の差が現れる原因

VII 資料名

62年度 福岡県農業総合試験場 経営環境研究所 果樹病害虫に関する試験成績書